



佐世保市立吉井中学校

校訓：「耕心」

所在地：佐世保市吉井町前岳3番地2

校長名：松山 弥六

生徒数：163名（9学級）

1 特色ある学校づくりに対する基本姿勢

校訓である「耕心」の精神のもと、教師と生徒、生徒同士、教師同士の心のふれあいと切磋琢磨を大切にしながら、

- (1) 生徒自身が「友達が好き、学級が好き、学校が好き」と感じることを。
- (2) 「生徒一人一人の夢や志をはぐくむ」こと。
- (3) お互いの存在を「認め合い」、お互いが「切磋琢磨」しながら自分自身を高め、将来に向かって前向きに進んでいくこと。

を目指す。その具現化のために、『伸ばそう 学力』『鍛えよう 心と体』『語ろう 夢や志』をテーマとして、特色ある学校づくりを推進し、実践した。



2 実践内容

(1) 伸ばそう 学力

○授業改善のために

本校研究テーマでもある「授業のユニバーサルデザイン化」について、外部講師を招聘し、より専門的な視点から授業についての指導助言、講演をしていただき、教師の授業力向上への意識改革へとつなげることができた。



(2) 鍛えよう 心と体

①生徒主体の行事運営

行事の運営を生徒主体で行うことによって、生徒の自己肯定感と責任感を高めた。特に、本校の特徴である5月の体育大会実施に向けて、2月から内容の検討を行い、4月の練習時からは生徒が前に立ち、生徒が指示をすることによって、生徒同士のつなが



りが広まった。また、合唱コンクールや学習発表会での劇や発表など、各学年で創意工夫を凝らした作品を創り上げた。自分たちで大きな行事を作り上げ、成功に導いたことが生徒の自信となり、その後の学校生活の活性化につながっている。

②人権教育の推進

小中連携、地域連携の行事として、6月1日の「いのちを見つめる日」にあわせ、吉井北小学校、吉井南小学校、吉井中学校の3校と、吉井地区学校支援ボランティア等の共催による「いのちを見つめる日教育講演会」を実施した。小中学生が一緒にSYD（幸せの種まきキャンペーン）の青木富造様、山口千恵子様を招いた講演会で「貧困とともに生きる子どもたち」の講話を聞いたり、「ゴミ山の中で暮らす子どもたち」のDVDを視聴したりすることができた。このことを通して、児童生徒たちは深い感銘を受け、人権について真剣に考えることができた。



③「法テラス授業」の実施と心の教育

12月に外部講師（弁護士）を招き、1年生を対象として「法テラス授業」を実施した。生徒たちの「人権意識」を高めることにつながった。



④家庭教育講座「未来が変わる！姿勢のはなし」 （全学年：2月実施）

「健康は正しい姿勢から」をテーマに姿勢指導の講師を招き、健康に生活するために必要なスキルを身につけるための講話や実践法を通して、自分自身を振り返ったり、これからの健康づくりへの関心と意欲を高めることができた。

⑤「豊かな心の育成」の一つとして、校舎廊下の水槽で鑑賞用の熱帯魚を設置したところ、鑑賞する生徒が日に日に増え、生き物を大切に作る心の育成へとつながっている。

(3) 語ろう 夢や志

①職場体験学習の実施

職場体験学習を、3年生（9月）、2年生（11月）で実施し、系統的なキャリア教育を実践した。3年生では、9月に職場体験学習を3日間の日程で行った。

職場体験学習では、職業の意義と生きることに対する考え方、将来の夢を広げるなど、体験を通して多くのことを学んだ。また、2年生も11月に2日間の日程で行い、将来、就きたい職業を考える機会となった。



②福祉体験学習の実施

2年生では、9月に福祉体験学習を2日間実施した。16の事業所にお世話になり、高齢者福祉についての体験学習を実施した。老人介護の現場を体験し、社会的視野を広げる大切な機会となった。

この学習を通して生徒の高齢者を思いやる心の育成を図ることができ、有意義な学習となった。また、事業所からも、中学生による地域貢献についての一定の評価を得ることができた。

1年生では、佐世保市社会福祉協議会の協力のもと、視覚障害者による講演会を行い、共生社会の一員としてのあり方について学ぶことができた。



③横断幕の作成

生徒の九州大会や全国大会への出場を紹介した横断幕を作成し、校門横に掲げたことで生徒の活躍を顕彰し、意識を高めた。また、生徒の活躍を地域に発信することにより、学校教育への関心を高めることにつながった。



4 成 果

- 『伸ばそう 学力』については、本校研究テーマでもある「授業のユニバーサルデザイン化」について、外部講師を招聘し、より専門的な視点から授業研究を実施し、教師の授業改善、意識改革へつなげることができた。
- 『鍛えよう 心と体』については、生徒を主体とした行事の計画と、各種講演会の開催による社会性の醸成によって、生徒の自己肯定感が高まった。

- 『語ろう 夢や志』については、「職場体験学習」「福祉体験学習」等の実施により、キャリア教育の大きな柱が明確になり、各学年に応じたキャリア教育の土壌ができた。
- 学校評価アンケートにおいて、「授業がわかりやすい」という項目に対する生徒評価が平均3.4であり、職員の授業改善に向けた取組の成果が見られた。「将来の生き方について真剣に考えている」については平均3.2と概ね良好であった。「人権教育推進」については平均3.3であり、本事業の成果が見られる結果となった。今後も学力の充実という観点から、校内研究を軸として「基礎学力の向上を目指した授業のユニバーサルデザイン化」により、さらに学力向上を目指していく。

5 今後の課題

本校は、「基礎学力の向上を目指した授業のユニバーサルデザイン化」をテーマに授業改善研究に取り組んできた。全教師の研究授業を実施し、意見交換を通して意識の向上を図ってきた。授業改善についての意識の高まりは見られてきているが、それを基礎基本の定着と学力向上へつなげることに今後の課題がある。今後もユニバーサルデザイン化の授業を行うための専門的な研修会、講師の招聘、複数の目による評価を取り入れながら、特別な支援を要する生徒への支援をどのように行っていくか研修を深めていきたい。

また、生徒の自己肯定感を高めるために、主体性をもたせた行事の実施、各種講演会の開催による社会性の醸成を今後も柱として取り組んでいきたい。